

第3学年〇組 美術科学習指導案

福岡市立〇〇中学校

指導者 〇〇 〇〇

1 題 材 「絵画制作の楽しさを味わう描画材の工夫 ～印象派絵画の模写～」

2 指導観

○ 私たちの生活は、形や色の視覚的な世界に密接に関わっている。さらに現代ではインターネットなどのメディアを介したコミュニケーションの形態が加速度的に進行しており、このような視覚文化社会を主体的に生きるためには、新たなイメージを創出したり、読み解いたりする力が必要である。

多くの生徒は、美術の学習を通して「上手に絵を描きたい」「思いどおりに色を扱えるようになりたい」という願いをもっている。しかしながら、中学生の段階では、対象のイメージをとらえる力や、それを具現化する表現技能がまだ十分に備わっていないために、自らの表現意図からかけ離れてしまい充実感や成就感を味わえず終わることも多い。発達段階からみても観察による表現願望が強まる時期であり、観察力や表現力を確実に獲得させることは、その後の成長や生活をより豊かなものとするためにも重要な課題である。

本題材では、クレパスでの模写を通して、表現意図を実現する基礎的技能を身に付けさせると共に、絵画制作の楽しさを味わわせたい。クレパスは、絵の具に比べ苦手意識をもっている生徒が少なく、工夫次第では油彩画のような表現になるため、完成後の充実感や成就感がより一層高くなる魅力的な画材である。また、模写は、古くから多くの芸術家によって繰り返し行われ、さらなる創造を生み出す原点であり、モチーフのとらえ方や作者のものの見方や感性を学ぶことで、形や色彩、構図などを学習するのに効果的な手法である。これらから、本題材は、生涯美術を愛好していく心情を育てるためにも意味深い題材だと言える。

○ 本学級の生徒は、学年の中では比較的表現技能に優れた生徒が多いクラスである。しかし一方で、個別支援を要する生徒や学習意欲が低い生徒も目立つ、大人しい雰囲気のクラスである。

この学年の入学時のアンケートによると、「図工・美術は好きだが、絵を描くことは嫌いである」と多くの生徒が回答していた。実際、本学級の生徒にも、描写力は優れているが、絵の具での着彩段階になると極端に消極的になる生徒が多く、これまでの「描く」題材の感想では、「下描きまでは楽しいが色を塗るのが嫌い」「思った色がつくれないから絵は苦手」という趣旨のものがよく見られ、絵画制作の楽しみを十分に味わっているとは言いがたい。

これまでに生徒は、1年時に色彩学、2年時には西洋美術史を学んできており、日常生活において、部活のユニフォームの色を配色の効果を考えて選んだり、美術館へ積極的に足を運んだり、自己紹介文に好きな画家や絵画の項目を入れたりする生徒が多くおり、色彩や絵画表現に対する興味・関心は高いことが伺える。また、昨年度末の感想には、「最後に絵が上手になって卒業したい」という要望が多く見られ、絵画制作への意欲が高まっている。これらから、色彩や思い描くイメージを表現することに興味や欲求はあるが、それらを表現する基礎的技能が備わっていないために、絵画制作そのものに苦手意識を感じていると推察される。

○ 指導にあたっては、常に形や色彩がもたらす感情など〔共通事項〕を意識しながら技能を働かせ、制作中は、全体のイメージをとらえ、自分の表したい感じが表現されているかを確認しながら制作を進めさせたい。まず、絵画表現には多様な表現があることを理解させる。ここでは、参考作品を通して、幼い頃に使っていたクレパスの幅広い表現に触れさせることで意欲・関心を高めた後、クレパスの模写に適した印象派の絵画16点の中から好きな作品を原画として選ばせる。次に、原画の輪郭線をイラストボードにトレースする。ここでは、絵画制作の技能のなかでも色彩表現に重点を置くため、トレーシングペーパーを使って輪郭線を写し取らせる。それから、効果的な表現技法を狙うために下塗りを行う。ここでは、原画の色を全て薄色5色に置き換えて画面を塗り分けさせる。下塗りを行うことで全体の調子をつかみやすくなるだけでなく、スクラッチの技法が効果的になるという利点を生徒に理解させ、制作順序などを総合的に考えながら見通しをもって表現する大切さを学ばせる。続いて、11色を使って本塗りを行う。ここでは、全体のイメージをとらえながら、自分が表したい感じが表現されているかを確認しながら表現させるために、絵画制作の順序をはっきりと提示して描かせ、「春のように暖かい感じができるように緑を塗る」というように表したい感じを意識させながら、クレパスの特性を生かして技能を働かせたい。また、最後に、互いの作品の鑑賞を通して、他者に認められる喜びを感じ、色彩や思い描くイメージを表現できる喜びや充実感を強く感じさせたい。

3 目 標

- 印象派の絵画のよさや美しさ、特有の表現方法などに関心を持ち、意欲的に制作しようとする。(関心・意欲・態度)
- 制作が進む中で、全体のイメージをとらえ、自分が表したい感じが表現されているかを確認しながら制作の順序を考えて進めることができる。(発想や構想の能力)
- 色彩の性質やそれらがもたらす感情を理解し、自分なりに感じた色彩のイメージを限られた色から豊かに発想することができる。(発想や構想の能力)
- 表したい感じを意識しながら、画材の特性を生かして技能を働かせることができる。(創造的な技能)
- 制作過程や相互鑑賞を通して、形や色彩の特徴を基に対象のイメージをとらえ、より深く自他の絵画のよさや美しさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

※下線部は特に〔共通事項〕を位置付けて指導する。

4 指導計画 (全13時間)

第1次	導入	参考作品や学習プリントを通して、クレパスによる絵画制作 に意欲・関心を持ち、16点の印象派絵画から原画を選ぶ。	1	時間
第2次	制作	クレパスを使って印象派絵画の模写作品を制作する。	11	時間
第1時		トレースする①(原画→トレーシングペーパー)	(1.5)	
第2時		トレースする②(トレーシングペーパー→イラストボード)	(2)	
第3時		マスキングをする	(0.5)	
第4時		下塗りをする	(2)	
第5時		ヘラをつくる	(0.5)	
第6時		本塗りをする	(4.5)	2.5/4.5《本時》
第3次	鑑賞	完成したお互いの作品を鑑賞する。	1	時間
第1時		マスキングの除去及びパッキング	(0.4)	
第2時		相互鑑賞を行う	(0.6)	

5 本 時 平成21年 10月 7日 (水曜日) 第5校時 場所:美術室

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、下塗りとヘラづくりを終えており、本塗りに入ったばかりである。下塗りの段階では、色の置き換えが難しい木の幹の色や陰影の黒色なども、最初は戸惑っている生徒もいたが各自で試行錯誤しながらほとんどの生徒が目標を達成した。しかし、本塗りに入ってから、表現したい色をうまく表現できずに手が止まっている生徒が数名見受けられた。また、絵画制作の順序を提示しているものの、未だ自分の好きなところから好き勝手に塗っている生徒もいることから、見通しをもって制作することや自分の表現を振り返ることの大切さが理解できていないものと思われる。

本時は、前時までの制作課題を明確にし、自分が表したい感じを表現するための表現技法を理解させることをねらいとしている。まず、学習プリントと拡大資料を使って制作手順の確認を行う。

次に、プロジェクターを使って表現技法を理解させる。ここでは、「点描」「もり上げ」「スクラッチ」「ぼかし」の4点を紹介する。

それから、学んだ表現技法を生かしながら制作させる。その際、机間指導を行い、自分の表したい感じが表現できていない生徒には、必要に応じてデモンストレーションを行い、表現技能の理解・習得を促す。

最後に、本時のねらいが達成できたかどうか挙手をさせ、技法の大切さを再認識させたい。なお、満足のいく表現ができなかった生徒には、次時において、各自の作品を見て回る「ウォッチングタイム」を活用し、同じ原画を描いている生徒の作品を参考にさせることで問題解決を図りたい。

(2) 主 眼

- 自分が表したい色彩や思い描くイメージを、「点描」「もり上げ」「スクラッチ」「ぼかし」などの表現技法を取り入れながら自分のねらいにそって表現することができる。

(3) 準 備

- ①学習プリント ②原画 ③イラストボード (A4) ④ティッシュペーパー (後片付け用)
- ⑤クレパス (黄色, 桃色, 水色, 黄緑色, 白色×2, 赤色, 青色, 緑色, 茶色, 焦茶色, 藍色の計11色・12本セット ※中身特注) ⑥試し描き用紙

(4) 過 程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点・方法	配時
1 前時の学習を想起し, 本時の学習内容を確認する。 ・ 進捗確認 ・ 課題の明確化 ・ 本時の流れの確認 ・ 制作手順の確認	○ 題材プリントを使って流れを確認し, 拡大資料を提示する。 ○ 前時において思いどおりに表現できなかったところや, どのような感じに表現したいか発表させる。		5
めあて: 自分が表したい感じを, 技法を取り入れながら工夫して表現しよう。			
2 表現技法を理解する。 ・ 点描 ・ もり上げ (厚塗り) ・ スクラッチ ・ ぼかし	○ プロジェクターを使って各技法の説明をし, 理解を促す。		10
3 技法を取り入れながら本塗りを行う。	○ 試し描き用紙を配布する。 ○ 机間指導を行い, 必要に応じてデモンストレーションを行う。	○ 学んだ表現技法を取り入れながら意欲的に制作している。(様相チェック・作品分析)	30
4 本時のまとめと次時の予告を行う。	○ 表現技法を試し, 少しでも自分が表したい感じを表現することができたか挙手をさせる。また, 思いどおりに表現できたところや難しかったところを発表させる。 ○ クレパスの汚れを取り除き, 片付けを行う。試し描き用紙は, 指定された場所に捨てるよう徹底させる。	○ 自分なりに感じた色彩のイメージを限られた色から豊かに発想することができる。(作品分析) ○ 表したい感じを意識しながら, 画材の特性を生かして技能を働かせることができる。(作品分析)	5